

されば、妙楽大師のたまわく「必ず心の固きに仮って、神の守り則ち強し」等云々。人の心かたければ、神のまぼり必ずつよしこそ候え。
これは御ために申すぞ。古の御心
ざし申すばかりなし。それよりも今一重強盛に御志あるべし。その時はいよいよ十羅刹女の御まぼりもつよかるべしとおぼすべし。

(御書新版1689ページ・御書全集1220ページ)

通解

(法華経を信ずる者は諸天善神に守られる)
それゆえ、妙楽大師は「心が堅固であれば、必ず神の守りも強いのである」と言われている。その人の信心が固ければ、諸天善神の守りは必ず強い、ということです。

これは、あなたのために申し上げるのである・これまでの、あなたの信心の深さは、言い表すことができない。しかし、それよりもなお一層の強盛な信心に励んでいきなさい。その時は、ますます十羅刹女の守護も強くなると思いなさい。

今日より明日へ

よくわかる解説

皆さんこんにちは、レオです！ 寒い日が続くけど、今月も御書を学んで、充実の日々を送ろう！

今回学ぶ「乙御前御消息」は、1275年（建治元年）、日蓮大聖人が54歳の時に身延で著され、乙御前と、その母親に送られたお手紙です。

乙御前の母は鎌倉に住んでいた門下で、夫と離別し、幼い娘を育てながら純粋な信心を貫きました。1271年（文永8年）、大聖人が佐渡に流罪され、鎌倉の門下たちにも権力からの弾圧が加えられると、多くの門下が大聖人を裏切って退転しました。そんな中でも、乙御前の母は信心を貫き、鎌倉から佐渡の大聖人のもとを訪ねています。大聖人は、その求道の心を称賛され、乙御前の母に「日妙聖人」という最高の称号を贈られました。

御文の中で大聖人は、信心を貫き、広布への決意が固い人には、その人を守る働きである諸天善神の守護が必ず現れ、どんな苦難にも打ち勝っていくけると教えられています。

挑戦の日々を！

続く御文では、乙御前の母が、より一層の信心に立つための極意を示されます。これまでの求道の姿を心から称賛し、その上で「これまで以上に強盛な信心を貫いていきなさい」と述べられているのは、信心において一番大切な「昨日より今日」「今日より明日へ」という姿勢を教えられるためと解されます。

私たちも、勉強や部活動などでモチベーションが上がらず、頑張れない時があるよね。そんな時は、勤行・唱題に挑戦して、自分の心と向き合うことが大事なんだ。そして、「もっと成長しよう」と決意し、挑戦を続ける中で、必ず成長した自分自身になることができるよ。

池田先生は「何があってもたゆむことなく、むしろことあるごとに、いよいよ強盛の信心を奮い起きて、わが生命を鍛磨していくことです」と語っています。

信心根本に「今日より明日へ」と心を燃やして、大きく飛翔していこう！